

平成29年度の運営総括及び来期の課題

1. 乳幼児事業

(1) 総括

①ちびっこ広場

毎週水曜日の午前中に「ちびっこ広場」を行っています。内容は絵本読み聞かせ、手遊び、親子体操、工作、誕生会等です。「ちびっこ広場」に参加することを楽しみに来館する親子が多く、みんなで歌ったり体操したりする楽しさを共有しています。毎月季節に合わせた「月の歌」を参加者皆で歌ったり広場の最後におなじみの体操をしたり、音楽を豊富に取り入れたリトミックを中心としたちびっこ広場を展開してきました。その結果、幼児が、音楽が聴こえるとリズムに合わせて踊ったり、日頃遊びに来る際に「月の歌」を親子で歌ったりする様子が度々見られるようになりました。

昨年まで頻繁に遊びに来ていた幼児の半数が保育園や幼稚園に入園し、今年度も新しい顔ぶれでイベントを行ってきました。味方地域の方だけでなく月潟地域・根岸地域・白根地域、区外・市外・県外からの来館も増え、利用者からの紹介や検診、育児相談で児童館を知り来館される方が多く、味方児童館が周知されてきていると感じました。

今年度も味方地区の親子サークル『りとるくらぶ』と共催で「ちびっこ運動会」、「ちびっこひなまつり会」などの季節行事を行うことができました。「ちびっこ運動会」、「ちびっこひなまつり会」は昼食が食べられるということもあり、とても人気のあるイベントです。食事の提供は、地域の食生活改善推進委員の方がボランティアで参加してくださっています。食物アレルギーのお子さんの除去食や、月齢の低いお子さんの離乳食など細やかな配慮をして下さり安心してみなさんと楽しく食事をする事ができています。祖父母が孫を連れて来館することも多く、祖母同士、祖母と母親などの異世代の交流も見られるようになりました。こうして地域で子育てするという環境ができ上がってきています。今後も利用者のニーズをしっかりと捉え、より楽しい、居心地の良い児童館を目指して管理運営を行っていきたいと思います。

②つくって遊ぼう

毎月第2週水曜日、木曜日、金曜日に親子で一緒に工作を楽しむ行事として「つくって遊ぼう」を行いました。子どもの月齢に合わせた季節の工作や、手作りおもちゃなど親子で楽しんで工作できるように工夫をしてきました。この行事をきっかけに、工作が好きになっていく子どももいるようで、ちびっこ広場に参加していた幼児が成長し、児童館の工作コーナーで廃材を使い楽しそうに工作をしている姿もよく見られます。

③ほっとティータイム

毎月第4週水曜日の午前中、ちびっこ広場の後に保護者向け、乳幼児向けの飲み物を提供する「ほっとティータイム」を行っています。飲み物があることで保護者同士が交流しやすく、保護者の友だち作りの場になっています。日頃育児に追われている保護者の方が『ほっ』と、ひと息ついて、育児ストレスを発散できる場所になればと企画して始めた効果が表れてきているように感じます。

④移動児童館

今年は初めて、味方地域の2つの保育園「あじほ保育園」、「にししろね保育園」での移動児童館を実施しました。それぞれの季節に合わせた体遊びやパネルシアターなどを、年中・年長児に向けて行いました。子ども達はとても楽しそうに活動してくれ、先生方にも非常に喜ばれました。次年度は内容をカプラに変えて継続予定です。

⑤ママのためのリフレッシュタイム

平成24年度から、子育てを頑張っている母親（祖母）にリフレッシュしてほしいと思い始めた事業です。年に4回、保護者の方が楽しめてリフレッシュできるものを企画しました。5月、11月には「ママのためのリフレッシュタイム」スタート時から継続して行っている「足つぼマッサージ」を開催しました。アンケートなどでは「マッサージをしてもらいたい」という要望がとても多いため、このイベントは毎回すぐに予約が埋まってしまうくらい非常に大人気となっています。その他には、29年度は職員の特技を活かした内容のイベントを行いました。8月にはハーブを勉強している職員が講師となり、「ポプリポット作り」をしました。作る楽しさに加え、作品を自宅に飾れる実用性を備えたポプリポットはとても好評でした。1月にはお花の先生の資格を持つ職員が講師となり、「ハンドメイドコサージュ作り」を開催しました。子どもの式典などに使える生花のコサージュで、参加した母親たちは、「本番に向けて自分で作ってみます」ととても嬉しそうにしていました。今後も保護者のニーズを汲み取りながら、心と体をリフレッシュし毎日の子育てを楽しめるような企画していきたいと考えています。来年度も年に4回開催する予定です。

⑥しゃべろっと

南区健康福祉課主催の子育て支援研修会に参加し、子育て支援リーダーとなった『子育てオーエンジャー☆みなみ』が中心となり、0. 1. 2歳の子どもの母親対象に支援を行っています。味方児童館を活動場所とし、育児中のちょっとしたストレスや愚痴を気軽にしゃべったり育児の悩みを相談し合うのが目的です。話しやすい環境づくりをするためにハンドトリートメントやお茶、お菓子も用意し、予約なしで気軽に遊びに来られるようにしています。

今年度は新たに、7月の「しゃべろっと」で「プチヨガ」を行いました。子育てをしているとなかなか体を伸ばしたりする機会もないようで、参加者からは「とても気持ち良かった」、「コリがほぐれました」との感想を頂きました。9月には、「つくろっと」で、白根南児童館の職員を講師に迎え、樹脂を使ったキーホルダー作りを行いました。オシャレなハンドメイド工作に興味を持っている母親も多く、真剣な表情で工作に熱中していました。「工作をしている間、子ども達を見てくれるおかげでじっくり工作が楽しめた」、「癒しタイムになった」とのアンケート結果が出ており、満足度が高かったことが窺えました。

『子育てオーエンジャー☆みなみ』のメンバーは、地域の主任児童員の方が担っています。味方地区には、味方児童館の存在を知らない方や、知っていてもなかなか児童館へ一歩踏み出すことが出来ない方がいらっしゃるようです。そこで、地域の方と協力し、保護者が孤立しない、孤立させないためのケアを今後も続けていきたいと思えます。来年度も年に6回行う予定です。

⑦父子親子の利用数の増加

近年では、母親だけではなく、父親が乳幼児を連れて来館することが増えてきています。特に土日の利用が多く、家族で来館することもあれば、父親だけで子どもを連れてくることもあります。いわゆる“イクメン”と言われる子煩悩な父親が増えてきたことでもあります。アットホームで親しみやすい児童館の雰囲気、父親一人でも来館しやすい要因となっていると感じています。また、家庭の中で、父親一人でも安心して行ける遊ばせられる遊び場としての認識が広がってきているのだと思います。今後も、どなたでも入りやすい温かな雰囲気を維持していけるよう努めていきます。

(2) 来期の課題

①児童館PRの拡充

日々業務をしていると、新しく来館した親子から、「こんな良い所があったんですね、知らなかった」、「もっと早く来ていれば良かった」といった声が寄せられることが多くあります。児童館の近所に住んでいるのに全然来ていなかったという方もおられ、驚くこともあります。開館から丸9年、PRをしてきているつもりでも、まだまだ意外に周知されていないものなのだなと感じます。そこで、来期はこれまで以上に味方児童館の存在を多くの方に知ってもらえるよう、PRの拡充をしていきます。月のおたよりや行事のチラシ、ポスターを、地域の小児科やショッピングセンターなどの施設に置いてもらうようにしたり、育児相談での情報交換などにより力を入れていくようにしたりしていきます。

②相談業務の充実

子育てに悩みを抱えて、誰かに話を聞いてもらいたくて来館する母親も多いと思います。『しゃべろっと』のようなイベント時だけではなく、常に母親達の悩みやストレスを受け止められる受け皿となれるよう、努めていきたいと考えています。ここ数年は、様々な子育て支援事業や講座の拡充に力を入れてきましたが、来期は、乳幼児親子との信頼関係が築けるよう、日常的な場面での乳幼児親子とのコミュニケーションを特に大切にしていきます。同時に、様々な相談に対応できるよう、職員のさらなるスキルアップにも取り組んでいきたいと思っています。保護者の心に寄り添い、気軽に話ができる居心地の良い児童館を目指していきます。

2. 小学生事業

(1) 総括

今年度も前年に引き続き、小学生の利用が増加した年であったと感じています。例年、来館が少なくなりがちな新1年生の来館が多かったという印象でした。幼児期に保護者と児童館に何度か来館したことがある子ども達が多く、既に慣れていたという理由があると思います。

味方児童館に遊びに来る子ども達は、異学年・異学校の子どもの仲間同士でも仲良く遊べるという点が非常に素晴らしいと思います。当たり前のように声をかけ合い、一緒にドッジボールやサッカーをして遊ぶ姿が毎日見られます。味方という地域柄と、小さな児童館ならではの特長と感じ、微笑ましく見守っています。

また、近年の傾向として、異学年・異学校の子ども達同士だけでなく、乳幼児親子との交流も盛んになってきていることが挙げられます。小学生達が自ら乳幼児の遊び相手を申し出て、乳幼児の母親達も快くそれを受け入れ、他愛ないおしゃべりをしながら楽しそうに交流する様子が頻繁に見られます。双方に良い影響を与えており、これは0～18歳までの児童を対象としている児童館ならではの最大の長所だと感じています。今後も、この多世代交流の小さな芽を大切に、トラブルのないよう気をつけながら見守っていきたいと思います。

今年度の小学生向け行事は、毎週火曜日に行っている『なかよし広場』の中に、『つくって遊ぼう』、『おりがみキッズ』といった工作行事、また防災に関する知識と意識を高めるために、『ミニ避難訓練』を定期的に混ぜ込み行ってきました。さらに、月に一回程度ドッジボール大会やオセロ大会、百人一首大会などの大型行事を開催しました。こうした大型行事には、度々地域の方々や中高生のボランティアのお手伝いを頂き、地域との交流の機会としても機能してきました。

地域の方々から要望を受け27年度から始まった『移動児童館』では、『味方ひまわりクラブ』に2回訪問し、さらに昨年度からは味方小学校文化祭体験教室にて『カブラ』の講師として訪問し、移動児童館を行いました。今年の『カブラ』は、巨大なバースデーケーキを2つ、参加した小学生達が力を合わせて作り上げました。来年度の文化祭も小学校に伺う予定になっています。また今年度は、かねてから要望のあった、味方地域の各公民館を使った移動児童館の実施も行いました。児童館から家が遠く、送ってもらわないとなかなか遊びに来られない子のために、七穂公民館の講堂で移動ドッジボール大会をしてみたところ、七穂地区の多くの子ども達が参加してくれ、移動児童館の必要性を改めて実感しました。

初年度から【子どもたちと一緒に作る児童館】を目標として掲げ、意識的に児童館運営を行ってきましたが、9年間の運営の中で徐々に味方児童館ならではの色がでてきているように感じます。毎年恒例となっているハロウィンパーティーでは、老人デイサービスセンター味方へ行き、ダンスや歌の披露、昔遊びをして利用者の方と多世代交流をしてきました。出し物を発表するために、自主練習や全体練習を積極的に行いました。また、コミュニティ協議会主催の敬老会に小学生が参加し、地域の方々の前でダンスを披露しました。その際の衣装や小物も、自分達で意見を出し合い、デザインし、工夫して納得のいくものを作り上げました。子どもたちの中で、“自ら行う”という気持ちが徐々に芽生えてきていると感じます。各行事後の片付けや掃除を積極的に手伝えることも増え、“自分達の使う児童館”として大切にしてくれている様子も見受けられます。今後も子ども達の気持ちに添いながら、一緒に楽しい児童館を作りあげていきたいと思っています。

(2) 来期の課題

①子どもたちの自主性を高め、育てていく

近年では小学生が自主的に行事準備を手伝ってくれたり、おまつりや各行事のボランティアを引き受けてくれることが多く見られるようになってきました。職員がやっている仕事に興味津々で、「何かお仕事ない？」と積極的に声を掛けてくる子ども達がたくさんいます。ただイベントに参加するだけでなく、運営側にも回ってみたいという気持ちが芽生え始めてきているようです。また、2012年度よりスタートした事業『小学生クラブ』も盛り上がりを見せており、子ども達が自らやろうとする自主性がぐんぐん育

ってきているように感じます。大人が先導するのでなく、子ども達自身が子ども達を引っ張って周りを巻き込み、どんどん自主性の輪が広がっていく、そんな子どもの力溢れる児童館を目指していきます。

3. 中・高生事業

(1) 総括

今年度は、より中学・高校との連携のパイプが強まった1年だったと感じています。特に味方中学校とは、児童館各行事のボランティアの募集を積極的に協力して頂いたり、中学生の情報交換のための会議の場に招いて頂いたり、これまで以上に密に関わらせて頂くことができたように思います。

昨年に続き、味方中学校剣道部の生徒達と協力して『味中剣道部と遊ぼう!』というイベントを開催しました。剣道部の生徒達が講師となり、小学生達に剣道を知ってもらうためのデモンストレーションや、スポンジ竹刀を使った剣道体験、ゲームなどをしました。小学生の前で堂々と進行をしてみせる中学生の姿は本当に立派で、成長を感じました。残念ながら剣道部が廃部になってしまう関係から、今年で終わってしまうイベントとなりますが、また違う形で中学生と関わられるようなイベントの企画をしていけたらと思います。

また今年は新たに、中学生の職場体験の場として味方児童館を活用してもらい、中学2年生女子2名が1日職員の仕事の実習を行いました。小学生の頃はいち利用者として遊びに来ていた児童館の、運営側としての側面を体験した中学生達は、「私達が学校に行っている間はこんなお仕事をしてたんですね」ととても新鮮そうでした。小学生達の遊び相手をしてくれる中学生の姿を見て、これが児童館の在るべき理想の姿だなあと感じました。児童館を利用した子ども達が成長し、自分達がしてもらったように今度は大人として下の世代の子ども達を楽しませてあげようとする、こうした循環が双方に良い刺激と成長を与えたいと思います。この流れを大切に、今後も中学・高校と連携しながら運営を続けていきたいです。

12月には『クリスマス会』に味方中学校の吹奏楽部に来てもらい演奏会を開きました。毎年恒例となっており、幼児、小学生にとっては間近で素晴らしい演奏を見ることができ、また、中学生にとっては人前で演奏する練習機会となりお互いに良い体験をしました。

近年恒例となっている『中高生夕涼み会』では、今年も味方中学校にご協力を頂き、生徒のランチの時間に、夕涼み会の告知と実行委員を募る時間を設けさせてもらいました。ポスターでの告知だけでなく、直接呼び掛けができたことでより多くの生徒達がイベントを知ることができたと感じています。また今年は、どうしたら夕涼み会に来たいと思ってもらえるかということ職員間で話し合い、中学生が好きなことをテーマに職員との卓球対決を取り入れました。普通の卓球では面白くないので、しゃもじや下敷きなどの変わり種のラケットを用意し、対戦相手とラケットをくじ引きで決めるなど中高生に少しでも楽しんでもらえるように工夫しました。

おまつりでは、中高生がボランティアスタッフとして協力してくれ、大活躍してくれました。味方中学校、白根高校のご協力を得て、大々的に生徒にボランティアを募った結果、たくさんの中高生が自主的にボランティアを引き受けてくれました。また、今年

はおまつりだけでなく、小学生クラブや夏休み工作のお手伝いを、たまたま遊びに来ていた中高生が快く引き受けてくれました。募った時に引き受けてくれるだけでなく、日常的に運営側のお手伝いをしてくれることが自然になっていました。この形が、中高生の居場所をつくることにも繋がっていると感じています。行事としても、今後もっと中高生が児童館に関われるような企画を考えていきたいです。

(2) 来期の課題

① 中高生に児童館での“居場所”を

開館時から中学生の来館数は約5倍に伸び、来館のなかった高校生も少しずつ増え始めました。小学生の頃から慣れ親しんだ児童館を思い出したまに来館してくれてはいるものの、中高生が長時間過ごすには物足りなさを感じたり、小学生だらけの中で居づらいこともあるようです。そんな、児童館を利用しようと思ってくれている中高生達が少しでも来館しやすいような工夫を考えていく必要があると感じています。その為には、イベント時に積極的にボランティアとして中高生を募る、小学生や乳幼児と関わってもらえるような機会を増やすなど、中高生の“居場所”を作っていくことに重きを置いて事業を展開していきます。また、そうした地域の方々との関わりや人の役に立つ経験が、心の成長や将来選択の一助にも繋がっていけばと考えています。

② 中高生イベントの充実

開館当初、中学生に向けてやってみたいことを募り、中高生イベントを行いました。その頃はまだ児童館の認知度も低かったことや、中学生も勉強に部活にと忙しく、なかなかいきませんでした。丸9年が経ち、児童館が地域の中でも認識されるようになり、中高生の来館も増えてきた今、中高生向けイベントを増やしていきたいと考えています。なかなか時間が取れず、たくさんの参加は容易でないことは予想されますが、“高校生になっても楽しい児童館”であるよう努めていきます。

3. 地域との連携事業

① 味方地区公民館との連携事業

- ・ 育児講座ベビーマッサージ（6月）
- ・ 人形劇（7月）
- ・ 食育講座おはよう朝ごはん（7月）
- ・ 陶芸教室（7、8月）
- ・ 新大 MUSE アカペラサークルコンサート（12月）

② 味方小学校、おむすびクラブとの連携事業

- ・ 校外学習（弥彦山登山）
- ・ いきいき子ども塾「お寺に泊まろう」
- ・ 「自学おうえん隊」
- ・ 文化祭体験教室「カブラ」

③味方中学校との連携事業

- ・職場体験（7月）
- ・味中剣道部と遊ぼう！（11月）
- ・クリスマス会吹奏楽部演奏会（12月）
- ・おまつり生徒ボランティア（8、2月）

④ボランティアとの連携事業

- ・なつまつり
- ・夏休み工作
- ・将棋で遊ぼう
- ・新年お楽しみ会（百人一首大会）
- ・ちびっこクリスマス会
- ・ふゆまつり
- ・乳幼児行事・小学生クラブ（食生活改善推進委員など）
- ・ちびっこ広場での絵本の読み聞かせ
- ・工作材料・手作りおもちゃの提供、花植え、瓢箪栽培、館内の凧の展示ボランティアなど 多数